新型コロナウイルス感染症に対する予防行動とその規定因

○榊原良太¹ 大藺博記¹

(¹ 鹿児島大学)

Key words: COVID-19, preventive actions

目 的

新型コロナウイルス(以下 COVID-19)の感染が世界中で拡大している中、感染拡大防止に向けた予防行動への取り組みが引き続き求められる。今後の第2波、第3波に備え、いかなる要因が予防行動を規定しているかを明らかにすることにより、予防行動の啓発を行う上でのヒントが得られるであろう。また、予防行動をめぐる人々の認識や、未曾有のパンデミック下での精神的健康にも、併せて目を向けていく必要がある。本研究は、広く様々な変数を含めた調査を実施することで、これらの問いに対する答えを探索的に導き出すことを目的とした。

方 法

■参加者：クラウドソーシングを利用したオンライン調査に参加した18～86歳までの男女3892名。

■調査項目：①感染予防行動：人込みを避ける、外出後に手を洗うなどの計12項目によって測定 ②マスク着用：「外出時にはマスクを着用している」という1項目によって測定 ③自己の感染リスク・他者を感染させるリスクの認知：自分が感染するリスク、感染した場合に重症化・死亡するリスクについて、また他者を感染させるリスク、感染させた場合に重症化・死亡するリスクなど、各4項目によって測定 ④拒絶回避・調和追求：Hashimoto & Yamagishi (2016)を用いて測定 ⑤予防行動を行う理由：自分が感染しないため、他者を感染させないため、周りからの低い評価を避けるため、国や自治体の要請に従うため、周りの人が予防行動をしているため、以上6点について各1項目測定 ⑥マスク着用の理由：自分が感染しないため、他者を感染させないため、周りから低い評価を受けないため、以上の3点について各1項目で測定 ⑦マスク着用の習慣：COVID-19以前のマスク着用習慣について1項目で測定 ⑧抑うつ：K6日本語版(Furukawa et al., 2008)を使用 ⑨感染への恐怖：「新型コロナウイルスに感染するのが怖い」という1項目で測定 ⑩今後の生活の不安：「今後の生活が不安だ」という1項目で測定 ⑪ビッグファイブ：TIPI-J(小塩他, 2012)を使用 ⑫予防行動の評価：自己、身近な他者、国民全体の予防行動について「～の感染予防高度は、十分だと思いますか」という1項目でそれぞれ測定

■手続き：調査は緊急事態宣言下の4/28と5/3～5/5の期間に2回に分けて行われた。

結 果

予防行動およびマスク着用を目的変数とした階層的重回帰分析を行った。Step1で年齢・性別・パーソナリティを(目的変数がマスク着用のときはマスク着用の習慣も)、Step2で自己の感染リスク・他者を感染させるリスクの認知、拒絶回避・調和追求、予防行動を行う理由、マスク着用の理由を別々に説明変数に投入した。結果を表1に示す。標準偏回帰係数(β)が.100以上であったStep2変数に着目すると、自己・他者の感染リスク認知、調和追求、自分が感染しないため(理由)、他者を感染させないため(理由)が、予防行動およびマスク着用と正の関連を示した。マスク着用が目的変数のときは、自分が感染しないため(マスク着用理由)、他者を感染させない

表1 階層的重回帰分析(目的変数：予防行動、マスク着用)

		予防行動		マスク着用	
		β	R^2	β	R^2
Step2	自分感染リスク	.214 ***	.222	.098 ***	.176
	他者感染リスク	.107 ***		.121 ***	
	拒絶回避	.006	.184	.019	.155
	調和追求	.236 ***		.104 ***	
	自分が感染しない	.242 ***	.388	.147 ***	.261
	他者を感染させない	.303 ***		.233 ***	
	周りからの評価	-.029		-.013	
	国や自治体の要請	.066 ***		.029	
	周りの人がしている	.019		.019	
	(マスク)自分が感染しない			.164 ***	.307
	(マスク)他者を感染させない			.336 ***	
	(マスク)周りからの評価			-.020	

** $p < .01$; *** $p < .001$

図1 予防行動に対する評価の比較

ため(マスク着用理由)も正の関連を示した。

また、自己、身近な他者、国民全体の予防行動の評価得点を一要因分散分析によって比較したところ、自己>身近な他者>国民全体の順で評価が高いことが示された($F(2, 3892)=1704.175$, $p < .001$, $\eta^2 = .133$) (図1)。さらに、感染の恐怖が予防行動と正の関連を有すること、現在までの貯金額の減少、家族関係の悪化が高い抑うつと関連することなどが示された(詳細は別紙)。

考 察

本研究では、COVID-19に対する予防行動の規定因の探索的検討をはじめ、現在の未曾有のパンデミック下における様々な心理・行動に関する変数の収集、分析を行った。今後の再流行の可能性に備え、有益な知見を提供できるよう、引き続き分析を行っていく。

(Ryota SAKAKIBARA, Hiroki Ozono)